

琉球大学学術リポジトリ

琉球に自生するヤシ科植物

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲宗根, 平男, Nakasone, Hirao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20392

琉球に自生する

ヤシ科植物

ヤシ科植物は典型的な熱帯植物で、その用途はきわめて広く、人類にとって有用な植物であります。琉球においても自生しているものが数種あり、又外地から輸入され、造園用として植栽されているもの数10種を数える事が出来ます。

ヤシ科植物には、20-30mに達する直幹性のもの、幹の根元の方がトックリ状になるもの、幹のないもの等があります。

葉はココヤシのように、「鳥の羽根の型」即ち羽状葉と、シユロのように「手のひらの型」即ち掌状葉があります。

果実は大きいものは、人頭大のココヤシ、小さいものはシユロの実のような小豆大のものがあります。

大昔から人類にとって利用されていたようですが、未開人の中には、現在でも建築材、食用として用いられ、文化人にとっては、造園用、並木用として特に賞用されて来ています。戦後は建築様式が、木造からブロック、鉄筋コンクリートと移り変わり、琉球においても高層建築が、都市は勿論、田舎にまで立ち並ぶようになってきました。

こうした建築様式の変化と共に、造園型式、並木型式も洋風化され、琉球の山野に自生して従来かえり見られなかつたものが、次々に利用されるようになってきました。

では、琉球に自生しているヤシ科植物にはどんな種類があるでしょうか。

ビロウ

一般によく知られているもので、方言で「クバ」と呼ばれるものです。全島に分布していて、海岸林やその近くによく見受けられ、高さ10m以上にもなって、台風にも強い種類に属します。幼い幹は食用に、葉は傘うちわ等の原料として利用されていますが、最近は並木用として重宝がられています。

シユロ

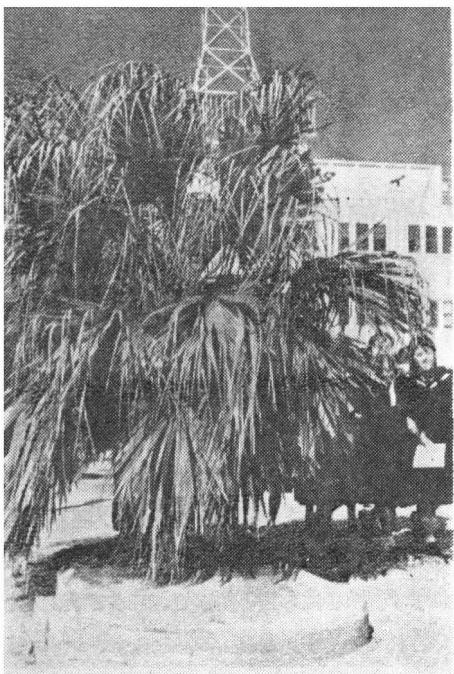
戦前はシユロ皮採取をかね、耕地防風樹としてよく植栽されていたようですが、近年は非常に少なくなっています。もともと支那あたりから輸入されたものと思われますが、自生状態が山間に点在しているのが見受けられます。寒さにも強い種類で、日本では庭園用として賞用されています。造園用のみならず、シユロ皮採取用として利用価値の高いものです。

クロツグ

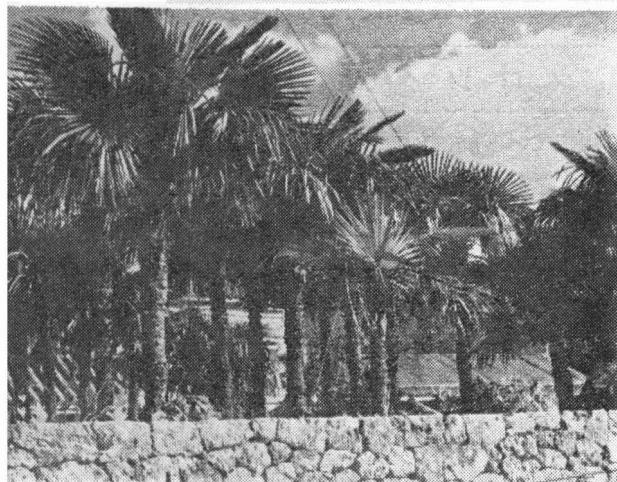
方言で「マーニ」と呼ばれ、これこそ山野に広く自生しているもので、殊に谷間や木蔭によく生育しています。最近食堂や喫茶店等に室内装飾用として、ヤシ類が用いられていますが、他のヤシ類は陽光を多量に要求しますので、1-2か月で葉の色が悪くなってしまいますが、このクロツグは室内で非常に強く、葉の色、勢も変わらない位です。東京都の八丈島産のは、都心に出荷され生花用、室内観賞用として需要が多く、増殖に務めているとの事です。近い将来琉球の「マーニ」も脚光をあびる時がやってくる事でしょう。室内観賞用としてお勧めしたい種類です。八重山地方には「コミノクロツグ」が至る所にあります。クロツグと殆んど同じですが、果実は小さく、幹の高さ1-2mになり、観賞用としては立派なものです。

ニッパヤシ

これは熱帯地方のマンゴーブと共に生えたり入江等に群生している種類です。西表島の「ヤシ川」に小群落をなしていて、琉球においては珍しい種類に属します。幹がなく葉だけが地上にそう生します。おそらく南方から漂着した種子によって自生状態となつたのでしよう。分布上重要で、この北限として十分保存したいものです。



ヒロカ（おなじみ通りにて）



シユロ（首里寒川町にて）



コミノクロツグ（石垣島にて）



サキシマヤシ（首里儀保町にて）

サキシマヤシ

これは琉球だけにしか
ない種類です。石垣島、
西表島に自生して、従来「ノヤシ」と呼ばれていたもの
ですが、鹿児島大学初島教授によつて新種として発表さ
れ、「サキシマヤシ」と命名されたものです。戦前、識
名園、円覚寺、崇元寺の庭園等にも庭木として植栽され
現在首里、那覇等にも數本戰禍をのがれて生き残つてい
るのが見受けられます。幹の高さ20m以上にもなる種類
で、よく台風にも強く、おそらく琉球の草木中で、一番
高く生長する種類でしょう。それ程頑強で、「打たれても、叩かれても屈しないぞ」といわんばかりに高くそび
えていますが、外見は非常に優美な型をしたヤシの一種
です。庭園、校庭、公園用として増植したい種類で、琉
球のヤシ科植物中世界に誇りをもつて示してもよい種類
だと考えられます。

以上の数種ですが、それぞれ特長をもつた種類ですの
で、これ等を有効に生かして、観光資源として増植に努
め、あるいは、種苗育成による輸出産業の一つとして將
来性ある有望な植物という事が出来ます。

（仲 宗 根 平 男）